

第3学年 道徳科学習指導案

令和3年10月27日（水） 第5校時

1 主題名 母なる大地 内容項目[D 自然愛護]

2 ねらい 自分の住む森を守るために自分にできることを精一杯するクリキンディの行動と実際に取り組んでいる環境保護の活動について考えることを通して、環境を守るために自分にできることがたくさんあることを知り、進んで取り組んでいこうとする心情を育てる。

教材名 「ハチドリの一とすく」（出典：「新・みんなのどうとく3」学研教育みらい）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領第三章特別の教科道徳の内容項目D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の[自然愛護]、第3学年及び第4学年「自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること」をねらいとしている。これは、第1学年及び第2学年の「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること」を受け、第5学年及び第6学年の「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること」へと発展していく。本指導内容は、自分たちを取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物を愛護したりすることに関するものである。

第3学年及び第4学年では、自然やその中に生きる動植物を大切にすることをさらに深めていくことが求められる。3年生になると自然のすばらしさに気付き、自然を大切に思うようになることにより、自分たちの命も守られていることに気付くようになる。そして、環境破壊が日々進み、その保全が喫緊の課題となっていることを知って、環境保全に関心を持ち、その必要性について考えられるようになる。

指導に当たっては、自然に親しみながら自然のもつ美しさやすばらしさを感じ得できるようにする必要がある。それらを踏まえて、身近なところから少しずつ自分たちなりにできることを、動植物と自然環境との関わりを考え実行しようとする心情を高めていきたい。

(2)

理科の学習で動植物の成長を観察したり、からだのつくりを調べたりする学習に意欲的に取り組んでいる。また、社会科の学習で学校のまわりを探検し、自分たちの住んでいる地域には多くの自然に囲まれていることに気が付いた。さらに、国語や音楽の教材を通して、澄んだ青空や秋の月の美しさ、夕日の美しさを感じ取ってきた。このような経験を通して、自然の美しさや大切さに気付いてきているものの、自分自身の生活との関わりについては、深く考える機会は少ない。

そこで、本主題を学習するにあたり、一人一人がねらいに迫れるよう、発問や助言、具体物

などの配慮を考え、以下の意識調査を行った。

質問事項	回答
1 「地球の自然がこわされている」という話を聞いたことはありますか。	・ある [redacted] 木をたくさん切ってしまうている。 ごみを捨てて汚くしている。 ・ない [redacted]
2 自然や環境を守るために自分や家族がしていることはありますか。	・ある [redacted] ごみはごみ箱に捨てている。 花を植えている。 ものを大切にしている。 畑仕事をしている。 ・ない、わからない [redacted]

アンケートによると、自然破壊ということについて知っている児童はほとんどおらず、自然愛護という主題は児童にとって身近なものではないことが分かる。また、自然を守るということをも自分事として捉えている児童も少ないことが分かる。

そこで、本時の学習で、自分の住む森を守るために自分にできることを精一杯するクリキンディの行動と実際に取り組んでいる環境保護の活動について考えることを通して、環境を守るために自分にできることがたくさんあることを知り、進んで取り組んでいこうとする心情を育てる。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、森の火事を止めるために自分ができることをするハチドリ姿を通して、ねらいに迫るものである。

森で火事が起こり、生き物たちは逃げていったが、ハチドリのクリキンディは皆に笑われながらも、「わたしにできることをしているだけ」と言って、水を一滴ずつ火の上に運び続ける。水を一滴運ぶことは、クリキンディにできる精一杯のことだが、それでは森は守ることはできない。守ることができるとしたら、動植物たちが力を合わせて、消すための努力をした場合だけである。火を消す努力をするクリキンディと、それを笑う動物たちが対照的に描かれている。その動物たちの姿は、自分たちの都合で環境を破壊し、顧みなかった私たち人間とも重なるともいえる。自然環境を守るためには、一人一人の意識と行動が必要であるという示唆に富んだ教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合い、ねらいに迫る。

① 森が燃えて、動物たちは逃げていく場面

森の火事から逃げる動物たちの考えを話し合うことを通して、自分では何もできない無力さに気付かせる。

② クリキンディが「わたしにできることをしているだけ」と答える場面

効果がほとんど期待できない状況でも、自分にできることをひたすらに取り組むクリキンディの気持ちを考えることを通して、行動することの大切さを考えさせる。また、その言葉を聞いた後の動物たちはどうしたかを想像させ、小さなハチドリが行動が波及すると大きな力になることや助けがないとその行動が十分に生きないことに気付かせたい。

③ 自然環境の保護に目を向け、自分にできることを考える場面

現在、地球の環境の変化によって動植物がどんな影響を受けているかを、視聴覚資料をもとに知らせ、感じたことを話し合う。さらに、自分自身の生活の中でできることは何かをグループで話し合い、考えを深めさせたい。

指導にあたっては、3年生の児童にとって地球環境の保全に関する学習は初めての機会であることから、導入や終末等で視聴覚資料を活用し、自然や動植物の生命の素晴らし、それらが失われる恐ろしさ等を、実感を伴って理解できるようにしたい。小さなハチドリが行動について話し合うことで、小さなことでもやり続けていくことが大きな力に変わっていくことに気付かせ、自分にできることへの意識を高めていきたい。

以上のことを踏まえ、「自然愛護」についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方についての考え方を深めたいと考え、本主題を設定した。

4 研究主題との関わり

研究主題 豊かな心を育む 子どもが輝く授業づくり
～「特別の教科 道徳」を通じて～

<目指す児童像>

- ①学習を通じて、道徳的諸価値について理解することができる児童
- ②他者と対話をしたり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることができる児童
- ③道徳的諸価値を基盤として、自己の生き方について考えを深める児童

仮説1 児童の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに迫る発問を明確にし、授業の構成や指導内容を工夫すれば、児童が道徳的価値への理解を深めるとともに、自ら考え、自主的に学習に取り組むことができるようになるであろう。

<手立て>

①発問構成の工夫

教材のもつ主題やねらいそのものに関わり、掘り下げたり追及したりする発問を中心に、場面発問や補助発問を適宜組み合わせることで、児童自ら道徳的価値への理解を促す。また、多

面的・多角的思考を促す発問をすることで、児童が主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。



本時では、児童の発言に際し、根拠を問い返すことで児童の思考を深める。

②授業展開の工夫

児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習だけでなく、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れる。児童が自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせ、自分事として考えたり感じたりすることができるようにする。



本時では、自然環境を守るためにできることを、自分の生活を基に考えさせる。ごみをきちんと分けて捨てることや、エコバックを持参すること、ものを大切にすること等、普段自分や家族が取り組んでいることが環境保護に繋がっていることに気付かせていきたい。

仮説2 教材や体験などを基に、考えたことや感じたことを共有させたり、異なる視点から多面的・多角的に考え、議論させたりすれば、自らの感じ方や考え方を深め、自らの成長を実感できるようになるであろう。

<手立て>

①言葉を生かし考えを深める工夫

児童が自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会の充実を図る。具体的には、役割演技を生かした話し合い、小集団での話し合い、書く活動の工夫、ICT機器の活用等、授業で意図的に設定していく。



本時では、導入や終末の場面、自然の美しさ、環境破壊が進んでいる様子について、大型テレビを用いて写真や映像資料を提示することで、児童の考えを深めていく。さらに、環境を守るために、自分にできることをグループで話し合うことを通じて、多面的・多角的に考えることができるようにする。

5 学習指導過程

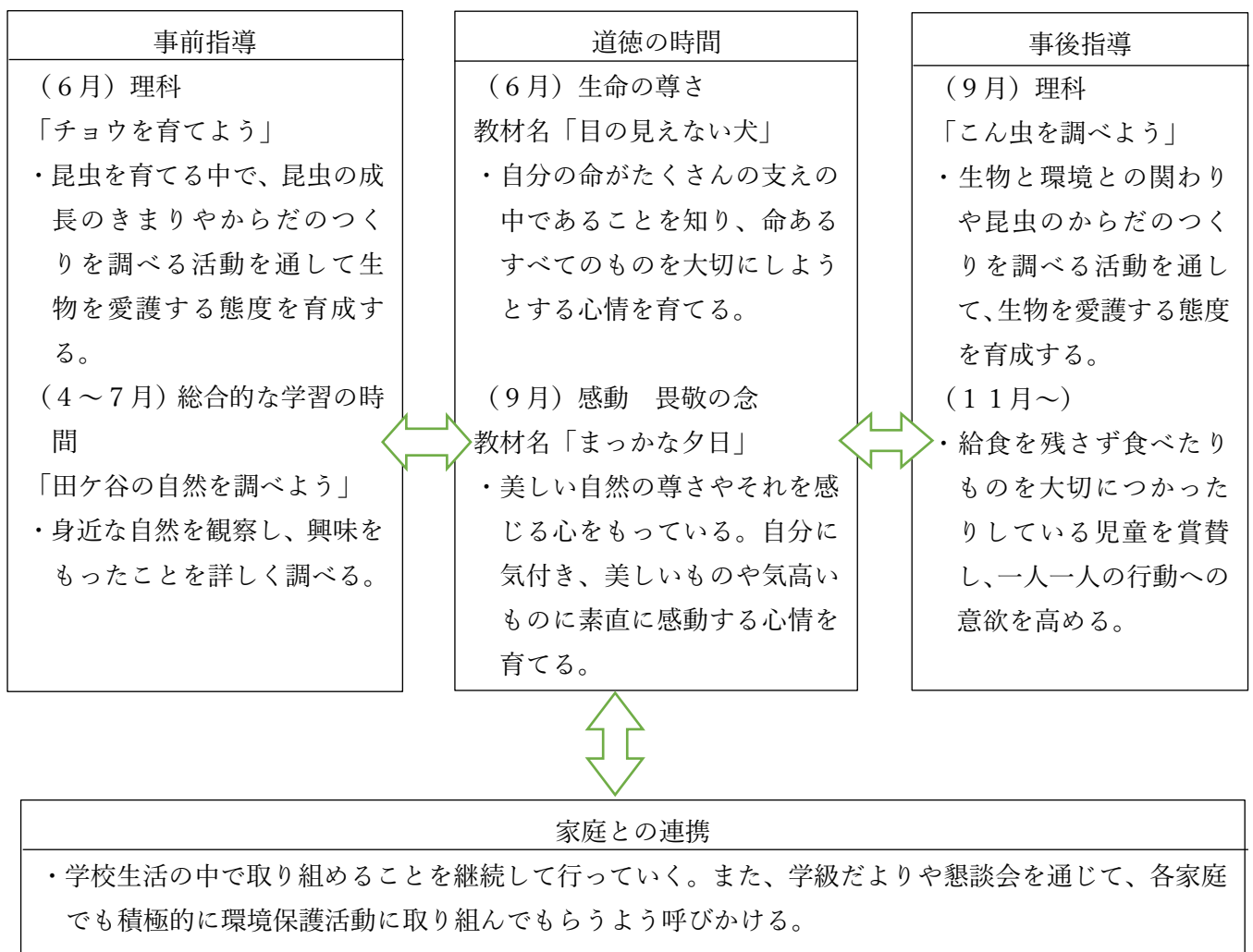
段階	学習活動 ○主な発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 学習への問題意識をもつ。 ○これらの写真を見てどん	・きれいな自然だね。	・美しい自然の姿と山火事の

	<p>なことを感じますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん動物たちが住んでいるんだろうな。 ・どうして火事になったのかな。 ・焼けた後はどうなるのかな。 	<p>写真を提示することにより、児童の問題意識を引き出し、学習課題を設定する。</p>
<p>自然を守るために必要なことはなんだろう</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の条件・状況について知る。 	<p>〈登場人物〉 クリキンディ（ハチドリ） 動物たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森が火事になって、動物たちは逃げていく。 ・小さなハチドリだけは、くちばしに水をためて、1滴ずつ水を運び、火を消そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハチドリや動物たちの写真を見せて、教材への興味・関心を高める。
<p>展開</p>	<p>2 「ハチドリのひとしずく」の範読を聞いて、話し合う。</p> <p>(1) 森が燃えて逃げる動物たちは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>○動物たちはクリキンディをどう思っていたでしょう。</p> <p>(2) クリキンディは、なぜ水を運んだのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早く逃げよう。 ・命が大切だ。 ・森をどうにかしなくては。 ・誰か消しに来てくれないかな。 ・住む場所がなくなる、どうしよう。 ・そんな少しだけ水を運んでも消えない。 ・一人でやっても意味が無い。 ・少しでも自分にできることをしたい。 ・森がなくなったら困る。 ・自分の大事な森を守りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では何もできず、逃げるしかない動物たちの気持ちを考えることを通して、自分一人ではどうにもならない大きな問題を前に逃げるしかないという現実も押さえる。 ・自分に出来ることを考え行動するハチドリとそれを笑う動物の姿を対比させ、多様な考え方があることに気付かせる。

<p>○たった一滴の水で火は消せるのでしょうか。</p> <p>○この後どうなったでしょう。</p> <p>3 自然環境について考える。</p> <p>(1) 今の地球にはどんな課題があるのでしょうか。</p> <p>○写真を見てどんなことを考えますか。</p> <p>(2) 地球を守るために私たちにできることを話し合う。</p> <p>○自然を守るために、自分にできそうなことは何で</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に火を消そうとした。 ・みんなにげてしまって、住むところがなくなった。 ・氷や森がなくなってしまうと、大変。 ・動物たちは住めなくなってしまう。 ・どうしてこんなことになってしまったのだろう。 ・このままでは自然がなくなってしまう。 ・身近な動植物を大切にする。 ・食べ物を残さないようにする。 ・ゴミはちゃんと捨てる。 ・電気は消す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その後、森がどうなったかを予想することで、小さなハチドリの行動が波及して森を救う力になることや、助けがないとハチドリの行動が十分に生きないことについて考えさせる。 ☆効果がほとんどない状況でも精一杯がんばっているクリキンディと何もせず逃げるばかりの動物たちを比べながら、動植物や自然環境を守ることの大切さに気付いている。(発言・記述) ・氷が溶けてしまった北極のようす、森林の伐採、プラスチックゴミのようすなどの視聴覚資料をもとに、人間の都合によって自然が破壊されている状況を説明する。 ・自分にできることを考え、ワークシートに記入する。その後、グループで話し合い考えを深める。 ☆自然環境を守ることについて自分との関わりで考えた
---	--	--

	すか。		り、書いたりしている。 (記述・発言)
終末	4 学習のまとめをする。 ○ 美しい自然や動植物の動画をみて味わいましょう。		・余韻をもって終われるようにする。

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・効果がほとんどない状況でも精一杯がんばっているクリキンディと何もせず逃げるばかりの動物たちを比べながら、動植物や自然環境を守ることの大切さに気付いている。

【道徳的価値についての理解を自分との関りで深めている様子】

- ・自然環境を守ることに自分との関わりで考えたり、書いたりしている。

8 板書計画

ハチドリの一としく

自然を守るためには、どんな心が大切なのだろう

森がもえて、にげる動物

- ・はやくにげなくちや
- ・住めなくなったらどうしよう
- ・命が大切だ
- ・森が心ばい

「そんなことをして
いったいなんになるのだ」

- ・一てきじゃ、火も消せない
- ・一人でやってもむだだ

場面絵

「わたしは、わたしに
できることを
しているだけ」

場面絵

- ・少しでも自分にできることをしたい
 - ・どうしても森を守りたい
 - ・住むところがなくなってしまうたら困る
- かぎりある自然を守るため、自分にできること

- ・近くの自然を大切にす
- ・ごみを捨てない
- ・食べのこしをしない
- ・ものを大切にす

小さなことでも、自分にできることを続ける

3年 道徳科研究授業・発問の流れ

1 主題名 内容項目	母なる大地 内容項目 [D 自然愛護]	
2 ねらい	森の火事を止めるために自分ができることをするハチドリの姿を通して、自然の素晴らしさや偉大さを理解し、大切に守ろうとする心情を育てる。	
3 教材名	「大あわての トラッピー」	
4 ねらいに迫る中心発問	教師の発問	発問の意図やねらい
	T クリキンディはなぜ水を運んだのでしょうか。 補助発問 ・笑われてもやめないのはなぜでしょうか。 ・一滴の水で山火事は消せるのでしょうか。	・たった一滴で山火事を防ぐことは不可能でも、自分にできることを必死でするクリキンディの心情について考えることを通して、自分にできる自然愛護について考えを深める。
5 中心発問を支える発問①	T 森から逃げる動物たちはどんなことを考えていたでしょう。 補助発問 ・水を運ぶクリキンディのことをどう思っていたでしょう。	・動物たちとクリキンディの考えを対比することで、多面的・多角的に考えさせたい。
	中心発問を支える発問② T 自然を守るために自分にできることはなんでしょう。	・自分にできることについて考えることで学習内容を自分事として捉えさせたい。
6 授業展開、教材教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・導入では、美しい自然の写真や山火事の写真を提示し、児童の興味・関心を高める。展開の後半では、美しい自然が、いま、どのような状況になってしまっているのかを写真で示し、自然保護への方向付けをする。 ・山火事から逃げる動物と、自分に出来ることを必死で行うハチドリの考えを対比し、自然保護について多様な考え方があることに気付かせるとともに、ハチドリの行動によって動物たちの心に変化が生まれるかもしれないことに気付かせる。 ・エコライフデーの内容を紹介したり、自分にできることをグループで話し合ったりすることにより、自然を守るための行動について多面的・多角的に考えられるようにする。 	